

地域の食を通じた観光支援

観光の目玉となる
新たな味覚の楽しみを

伝統捕鯨や牡蠣やワカメなどの養殖といった、半島独特の地形を生かした漁業で知られる牡鹿半島。この地もやはり、東日本大震災による津波で甚大な被害を受けました。そこで、半島の自然に親しむ観光客を集め、この地域に活気をもたらすために新たな地名・名物となり得る「おしかグルメ」づくりにチャレンジ。牡鹿地区の人々と仙台市内のレストランシェフたちが強力なタッグを組みました。

昨年6月25日、プロジェクトに賛同してくれたフレンチレストラン「ブレイズ」の佐藤亮シェフと「ビストロアンセルク」の佐々木現人シェフが、石巻市狐崎浜を訪問。おしかリグ代表の大塚恵介さんをガイド役にして、牡蠣漁師の阿部政志さんに取材を行い、牡蠣ならではの海の幸についてリサーチしました。そして、鮎川浜の番屋で、割烹民宿めぐりのご主人・目黒繁明さんと民宿の女将さんたちと対面。震災後、客足が遠のいていいる現状と、宿泊客の楽しみとつながっているのが宿の食事だという話を聞きました。



右：狐崎浜の阿部政志さん（写真右）へ、牡蠣の食材について聞く佐藤シェフ（中）と佐々木シェフ（左）。右：鮎川地区の「番屋」で民宿の女将さんたちとミーティング。左：大塚恵介さん（左）と目黒繁明さん。左下：ホタテやワカメなど、大いに可能性を秘めた牡鹿半島の海の幸

牡鹿半島の旅に、新たなご当地グルメを。

人気レストランの
シェフ5人が集結



牡鹿半島が素晴らしい食材の宝庫だと手応えを得たシェフは、さらにフランス食堂「オコシヨンプール」橋本シェフ、レストラン「ジジ」辻圭一郎シェフ、レストラン「拓」樋口拓也シェフの3人に相談を持ちかけ、「おしかグルメ」のレビづくりを本格的にスタート。メニューのアイデアがある程度固まったところで、プロジェクトに参加する牡鹿地区の有志メンバーに味わってもらおうと、今年1月30日に橋本シェフのお店「オコシヨンプール」で披露を行いました。

シェフ5人でできるレシピの検討を行った後、2月21日に同店で今できることプロジェクト協賛社向けの試食会を開催しました。当日は2部制で、参加者は50名。プロジェクトの概要をシェフによるメニューの説明が終わった後、バイキング形式で自由に味わってもらいました。テーブルの前には、何度も並び直して参加者の列が絶えないほど大評判。飛ぶように料理が無くなくなっていきました。シェフたちも満足そうな笑顔を見せました。試食会の締めくくりに大塚さんは、5人のシェフが手掛けるレシピの料理を詰め込んだ「おしかグルメ」のランチボックスとして完成させる構想を発表。会場の期待が高まりました。



太平洋の南東に突き出した牡鹿半島は、沿岸に小さな港や浜が点在。そこから、牡蠣やワカメなど多彩な海の幸がもたらされます。また、海を望むパノラマを満喫できる「おしか御番所公園」や支倉常長出帆の地「月浦」、「宮城県慶長使節船ミュージアム（サン・ファン館）」といった観光スポットも。内陸部には豊かな森林も育まれ、海山のレジャーやドライブを楽しむのにつづつです。鮎川港からは、海上タクシーで金華山に渡ることができ、黄金山神社の参拝や野生のシカなどと出合える自然散策を楽しむことができます。これからの行楽シーズン、民宿を利用してゆったり滞在しながら、牡鹿半島へ出かけませんか。なお、半島の味覚と観光の魅力体験できるツアーを今後実施する予定です。詳細は今後の河北新報朝刊にて発表いたします。



おしか御番所公園 宮城県慶長使節船ミュージアム（サン・ファン館）

今できることプロジェクト

2016年度

さらに、その先を見つめて。

年を重ねるごとに、風化の一途をたどる東日本大震災の記憶。それでも、まだまだ多方面で支援が求められる中、私たちにできることは何かを考え、2016年度もこのプロジェクトがスタート。4つのテーマを柱に、河北新報読者や賛同企業の皆さまと同じ思いを重ね、新たな活動を展開しました。

2016年度プロジェクト参加者 約700人
Facebook「いいね!」数 2,268 (2017年4月現在)

プロジェクトはこれから皆さんとともに進んでいきます。

2016年度における今できることプロジェクトの活動はこれで一旦完了となりますが、「おしかグルメランチボックスの開発」の継続も含め、新たな展開を現在企画中です。真の復興のために、何ができるかを皆さまと一緒に考え、その思いや学びを共有しながら、より人の輪を広げていきたいと考えています。

2017年度活動のスタートを切る際には、また、河北新報紙面とホームページ、フェイスブックでお知らせいたします。リアルタイムの情報は、フェイスブックの記事でお伝えしていきますので、引き続きご覧いただけますようお願いいたします。

皆さんの支援情報や参加しているプロジェクト、感じていることを「今できることプロジェクト」特設HPにお寄せください。

www.kahoku.co.jp/imadeki/ 河北 今できること 検索

facebookページもあります。

熊本地震復興支援

熊本の商店街から復興を歩む女川へ

2016年4月に発生した熊本地震で、建物の倒壊や観光客減少など甚大なダメージを受けた熊本県内の商店街。その復興を支える若き人々が、目を見張るスピードで復興を進める女川町を訪れ、両地の交流がスタートしました。

昨年11月21日、熊本市下通新天街商店街振興組合の桑本知明さん、上通1・2丁目商店街振興組合専務理事の森岡大志さん、熊本市新市街商店街振興組合青年会理事の安田征司さんが、シバルビア女川の中心にある女川町まちなか交流館に向かいました。出迎えたのは、女川町商工会の青山貴博さんと、復幸まちづくり女川合同会社の阿部喜英さん。まずは、女川町における震災発生から現在に至るまでの復興の歩みを紹介しました。さらに、メルサンの高橋政浩さんと、みなとまちセラミカ工房の阿部陽美さんも合流し、今後の交流を考えるトークセッションを実施。女川メンバーは、熊本地震の影響、各商店街の特徴や現在取り組んでいる施策などについて聞き取りました。



上：被災直後の女川町商工会の役割を、熊本メンバーに説明する青山さん。下：たぐさんの仮設店舗が軒を連ねる「きぼうのかね商店街」も撮影

女川メンバーが熊本で意見交換

翌月6日、今度は女川町の4人が熊本県熊本市の中心地へ一行が向かったのは、7月と県民交流館「レオ」。10階会議室では、熊本地域商業リーダーたち総

ともに手をたずさえ、新たなまちづくりへ。

着実に交流を深める若きリーダーたち



上：熊本地域商業リーダーたちの前で、新しい女川のまちづくりについて表明する女川町の4名。下：大きなダメージを受けた「阿蘇神社」を見学

今年2月19日、女川町商工会青年部の5名が、熊本県商店街振興組合連合会を訪問。これは、青年部長のマルサ高橋さんと熊本市新市街商店街振興組合の安田さんのホッティングにより実現しました。若手経営者同士、イベントや物産の交流に着手するためのアイデアを出し合いましたが、その中には今年秋の熊本の祭り「女川産サン」を提供するといった具体案も。高橋さんは、「まずは、無理せず実現可能な範囲で、着実に進めていきたいと考えています」と教えてくれました。



女川町商工会青年部5名が熊本県商店街振興組合連合会の事務所を訪訪

震災伝承次世代育成支援

震災の記憶と教訓を若い世代につなぐ

仙台国際センター展示棟で3月12日に開催された「仙台防災未来フォーラム2017」のテーマセッションとして、次世代が語る「次世代と語る3・11震災伝承」防災・復興をテーマとした（主催：河北新報社・特別協賛：日本損害保険協会、尚綱学院大学の学生ボランティアチームT.A.S.K.I.）たすきが活動報告し、通年講座3・11伝承／備える次世代塾について事務局の河北新報社が説明、フォトジャーナリストの安田菜津紀さんがフライング1人越えに見つめた「東北」と題して講演しました。さらに、地域の震災伝承に関わる3人に加えてトーク

4こども未来応援教室

興味を深め将来の職業像を思い描く

2016年度のテストを飾る活動として、地域の将来を担う子どもたちを応援する「こども未来応援教室」を、3月25日に宮城大・大和キャンパスで開催しました。午前中は、プロジェクト賛同企業などによる独自の授業「社会科学習」を3教室実施。午後は、子どもたちの関心が高い職業のフロアに授業を行ってもらい、そのシゴトを体験する「シゴトワークショップ（今回は、カメラマンや指揮者など7教室）を行いました。

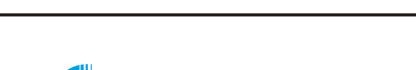
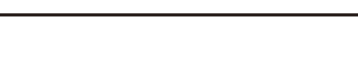
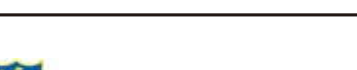
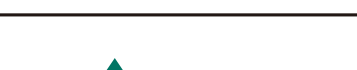
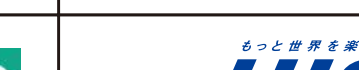
セッションもを行い、命を救う教訓継承の大切さと防災啓蒙の重みを共有しました。そして4月15日には、「3・11伝承」の備える次世代塾、東北福祉大学仙台駅東口キャンパスで開講。募集定員30人を大幅に上回る116人の大学生や社会人を受け入れました。開講式を行った後、わたしたちにとって、震災とは何かを語り合うグループワークを行い、受講生同士の交流も図りました。講座は来年3月まで全15回を予定しています。



右：若き担い手が集まった「3・11伝承」の初回講座。左：フットジャーナリスト安田菜津紀さんが登場したトークセッション



上：神戸製鋼コルコスティーラーズの現役選手が登場。中：指揮者体験に子どもたちの目は真剣そのもの。下：内容充実の保護者向け講演会

 明治安田生命	人を、想う力。街を、想う力。 三菱地所グループ	仙台弁護士会所属・弁護士法人 平松剛法律事務所	 日本生命保険相互会社	伝承千年の宿 佐助	 SoftBank	 石油連盟	 尚綱学院	 SAPPORO キリンビール株式会社	今できることプロジェクトは 賛同企業46社の大きな支援によって活動しています。		
 森永乳業	車検・点検はサービスステーション運動実習中の会員工場へ 一般社団法人 宮城県自動車整備振興会	 FUJISAKI	 野村不動産	 東北三菱 東北三菱自動車販売株式会社	一生運のパートナー 第一生命 Dai-ichi Life Group	 潜匠建設株式会社	 進学プラザグループ	 SUNTORY	 KS ケーズデンキ	 岩手日日新聞社	 IHI Realize your dreams
 RICOH imagine. change. リコージャパン株式会社	一般社団法人 宮城県建設業協会	 FUJIFILM Value from Innovation 富士フイルムグローバル・グラフィックシステムズ株式会社	 HATO BUS	 日本製紙株式会社	 大東住宅株式会社 家造りと共に信頼づくり	 仙台育英学園	一信用と創造一 住友不動産	 JA共済	 劇団四季	 HIS Love, Peace TRAVEL	 モミの木の家 アヴィエスホーム
 蓮臺寺 宗教法人	 COOP みやぎ生協	 三井不動産 都市に豊かさと調いを	 HITACHI Inspire the Next 日立システムズ	 日本製紙クレシア株式会社	 DIC グラフィックス Color & Comfort デザインセンター	 龍ヶ崎 銘撰	一般社団法人 生命保険協会 宮城県協会	 JTB 感動のそばに、いつも。	 KOBELCO 神戸製鋼グループ	 NTT DATA 株式会社 NTTデータ 東北	 Asahi その感動を、わかちあう。